

## 第 3 回 埋立地等における薬液注入工法による 地盤改良工事に関する検討委員会

### － 論点のまとめ －

#### ◆ 第 3 回委員会での論点

- ①  $q_u$ - $\Delta$  等価  $N_d$  値の関係式により、改良地盤の強度を推定することは適当か
- ②  $\Delta$  等価  $N_d$  値が大きくない場合は、どのように評価すればよいか  
(動的コーン貫入試験の適用限界は、砂地盤では深さ 20m、 $N_d$  値 $\leq 30$ )  
→改良前地盤の等価  $N_d$  値が大きい場合は、そもそも液状化しない地盤と判定してよいか。  
→累積過剰間隙水圧比がプラスであることを確認し、地盤改良がされているもととして判断してよいか。
- ③ 連続的に評価すべきか、平均をとり評価すべきか  
→例えば、区間平均の設定を 20cm 毎や 1m 毎にする等。

#### ◆ 次回委員会までの対応

- ・ 細粒分や相対密度の影響を把握する(室内実験)
- ・ 100kN/m<sup>2</sup> 未満のサンプルを増して、 $q_u$ - $\Delta$  等価  $N_d$  値の関係をさらに明らかにする(室内実験)。
- ・ 現地試験結果により、実地盤での適用性について検討する(現地試験)。

#### ◆ 今後の課題

- ・ 動的コーン貫入試験の適用限界を超える場合の評価方法
- ・ 評価時の動的コーン貫入試験の調査位置、間隔の考え方